

【8 大津町 Ozu Town】



阿蘇くまもと空港から

大津町では、町の南側を東から西へ流れる白川の流域、南西側の高遊原(たかゆうばる)台地に広がる阿蘇くまもと空港、北東側にそびえる阿蘇北外輪山の矢護山などから、熊本平野・金峰山越しに“[東面の雲仙岳](#)”が眺望できます。白川流域や阿蘇くまもと空港、矢護山からは、[阿蘇山](#)も眺望でき、[阿蘇山と雲仙岳](#)の間の歴史的な[大三角形](#)(※阿蘇地域のページ参照)を視覚的にイメージすることが可能です。矢護山ではパラグライダー体験も可能で、空からの[阿蘇山・雲仙岳](#)のパノラマを楽しむことができます。

白川の北側には、豊後街道(大分市～竹田市～阿蘇カルデラ～熊本市)が通っており、幕末に勝海舟・坂本龍馬の一行が江戸から長崎に出張した際には、この豊後街道を通り、有明海を渡って雲仙岳山麓の街道を通り、長崎に到達したとされています。そのすぐ南側には、大分市～長崎市をつなぐ国道 57 号線が横断していますが、この国道は、もともと阿蘇くじゅう国立公園と雲仙天草国立公園をつなぐルートとして、別府観光の父・油屋熊八氏が提案した九州横断道路の一部となっており、白川とともに上記の大三角形の中軸にあたる位置を通過しており、[阿蘇山と雲仙岳](#)のつながりを感じることができる道路です。

白川の流域に広がる水田は、下流の熊本市内の地下水の涵養に貢献しており、菊陽町や熊本市等と「白川中流域における水田湛水推進に関する協定書」を取り交わしています。その白川の水は、やがて有明海に流れ込みますが、全国一の規模を誇る有明海の干潟の泥は、かつての[阿蘇山](#)の大噴火による噴出物を白川や緑川などが日々流し込んでいるもので、その泥が外洋に流れ出さないのは、[雲仙岳そびえる島原半島](#)が有明海の水の出入口を狭めているためです。

[雲仙岳](#)の様々な表情を探しながら、大津町内を旅してみませんか？

●大津町の観光情報はこちら↓

大津町商業観光課 <http://www.town.ozu.kumamoto.jp/product/kanko.html>

肥後おおづ観光協会 <http://higoozu-kankou.jp/>



阿蘇くまもと空港から見た阿蘇北外輪山の矢護山